



佐渡一国海岸図(辰巳村～沢根村部分抜粋) 相川郷土博物館

あった相川の金銀山開発も容易なものとし、1601年(慶長6)、鶴子銀山の山師たちによって良質の金銀鉱脈が相川で発見されたことで、佐渡はゴールドラッシュを迎えることとなりました。1603年(慶長8)、佐渡代官に着任した大久保長安は、同年鶴子にあった陣屋を相川に移転し(翌年完成)、相川の道を整備したことで、鶴子の町や寺院なども次第に相川に移転し、金銀山の中心地は次第に相川へと移っていきました。

## ご見学の皆様へのお願い

鶴子地区は、鶴子銀山のエリア(現 沢根及び沢根五十里の山間部)は、足下が悪く、危険な箇所があり、ハチやヘビなどの有害動物にも注意が必要です。観光客向けの施設は設置しておりませんので、現地にお越しいただく際にはガイドツアーでのご訪問を奨励いたします。

- ・住民や他の来訪者の迷惑にならないようマナーを守りましょう。
- ・鉱山跡などでは危険な箇所があります。坑内など立入禁止の場所には絶対に入らないで下さい。
- ・遺跡や建物を傷つける、出土品・土石・動植物を持ち帰るなどの行為は禁止されています。
- ・ゴミは各自でお持ち帰り下さい。
- ・見学場所での火気の取り扱いは厳禁です。タバコは決められた場所で喫煙しましょう。
- ・交通ルールを守って周遊しましょう。(路上や民家敷地内への駐車はご遠慮願います)

## 《交通アクセス》鶴子銀山にお越しになるには



- 両津港から…車で50分(国道350号線)
- 小木港から…車で75分(国道350号線・県道45号線)
- ※鶴子銀山への直線の路線バス等はありません。  
レンタカー・タクシーをご利用ください。

## 金銀山、GO!

“江戸眼鏡”で佐渡の街歩き



現地の補足説明や  
ARフォトフレームで  
現地散策が  
さらにお楽しみ  
いただけます!

世界遺産の  
情報はコチラ



### お問い合わせ

新潟県佐渡市世界遺産課 TEL: 0259-63-5136  
きらりうむ佐渡 TEL: 0259-74-2215

発行日: 2026年3月31日

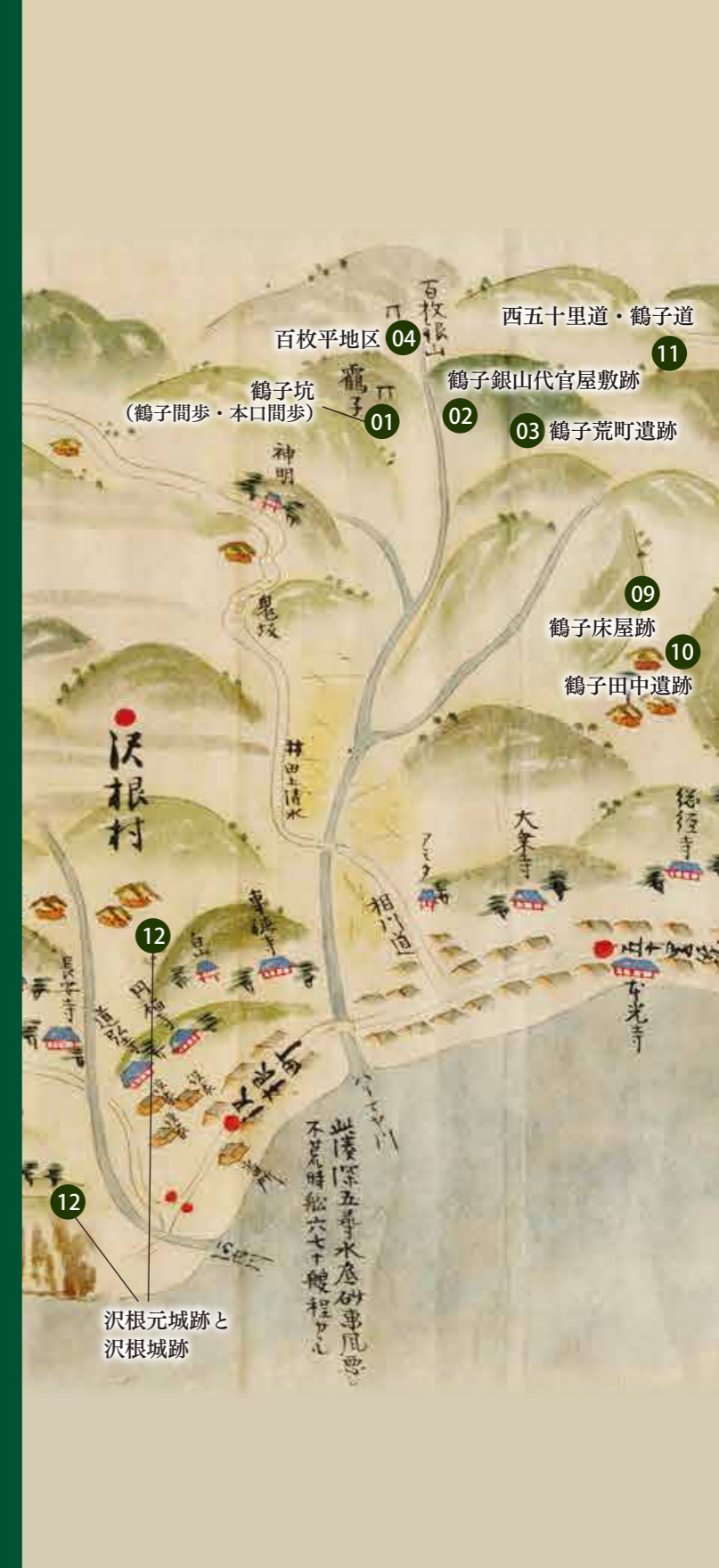
# 鶴子見どころマップ



# TSURUSHI



## 世界文化遺産「佐渡島の金山」



## 鶴子銀山の歴史

鶴子銀山は、越後国の商人であった外山茂右衛門が、佐渡に渡海した1542年(天文11)に発見したとされており、砂金山を除くと佐渡島で採掘の行われた銀山の中で最も歴史が古い鉱山です。石見銀山から導入されたと考えられる坑道掘りと灰吹法と呼ばれる製錬技術によって、鶴子間歩や百枚間歩などの諸間歩では銀の産出量が飛躍的に増大し、「鶴子千軒」と呼ばれる繁栄期を迎えました。こうした技術の導入は、1596年(文禄5)以降、鶴子の奥山と呼ばれる存在で



01 つるしこう 鶴子坑 (鶴子間歩・本口間歩)

江戸時代の記録によると、1595年(文禄4)に島根県の石見銀山から佐渡へやってきた山師が、「本口間歩」を開坑したと伝えられています。この本口間歩は、後に鶴子間歩や鶴子坑とよばれ、閉山までの主要坑の一つとして採鉱が続けられました。江戸時代の絵図も残されており、地中に複数あった鉱脈を狙って坑道が掘られていたことがわかっています。



02 つるしぎんざんだいかんやしきあと 鶴子銀山代官屋敷跡

16世紀末、越後国の戦国大名上杉景勝の佐渡支配に伴い、鶴子銀山の管理・運営のために設置されました。1603年(慶長8)に徳川幕府による支配に代わると、管理・運営の機能は相川に移されますが、17世紀半ば頃までその出先機関としての役割を担ったと考えられます。発掘調査の結果、敷地は機能の異なる3つの区域(上段:選鉱作業場、中段:製錬作業場、下段:管理施設)からなることが明らかになりました。



03 つるしあらまちいせき 鶴子荒町遺跡

鶴子銀山代官屋敷跡の東側に隣接する鉱山集落跡です。南向きの急斜面には、大小の不定形な平坦地が多く造成され、住居や作業場として利用されていたと考えられています。これは、銀の生産量が増加した16世紀後半に、この地に居住する鉱山労働者が増加して、急速に集落が成立・拡大した様子を示しています。17世紀半ば以降、銀の生産量減少と共に多くの人々がこの地から移住し廃絶したと考えられます。



04 ひやくまいだいらちく 百枚平地区

百枚平地区は、鶴子銀山で最も初期に開発されたと考えられる代表的な採掘域です。鶴子銀山を発見した外山茂右衛門が、地元の領主に1ヵ月銀百枚を税として納めたことから、銀を採掘した場所に「百枚平」という地名が名づけられたと伝わっています。百枚平周辺の尾根や沢沿いには、直径5mを超える大型の露頭掘り跡が多く密集しており、かつて盛んに銀が採掘されていた様子が伺えます。



05 びょうふさわしできさわちく 屏風沢・仕出喜沢地区

屏風沢・仕出喜沢地区は、山師の初代秋田権右衛門によって、慶安年間(1648-1652)以降に開発が進められました。鶴子銀山のほぼ中央部にあり、尾根や沢沿いに露頭掘り跡や坑道掘りなどの採掘跡が集中しています。中でも屏風沢地区には、沢の斜面に露出していた鉱脈を追いかけながら地下に向かって斜め方向に掘った大規模なひ追い掘りによる採掘跡が残っています。



06 おおたきまおきわ 大滝間歩

大滝間歩は17世紀初頭に坑道掘りが行われ、19世紀に再開発が行われた採掘跡の一つで、滝つぼの奥に坑口が開口しています。間歩の名称は、坑口のそばを流れる大きな滝より名付けられたと考えられます。ロボットによる坑内の探査・測量が行われ、測量図と江戸時代の絵図に描かれた坑道の形状を比較した結果、絵図に描かれた坑道とほぼ一致することが明らかになっています。



07 やましあきたしはか 山師(秋田氏)の墓

鶴子銀山を代表する山師であった秋田氏一族の墓で、二つの五輪塔とその周辺に一族の墓が建てられています。初代権右衛門は、秋田出身と伝わり、鶴子銀山の再開発によって得た利益をもとに、西五十里村(現在の西野)に金北山神社や吉祥寺を建立したと伝えられています。二代目権右衛門は、相川金銀山の山師となり、その子孫は幕末まで佐渡奉行所お抱えの山師として存続しました。



08 きんぼくさんじんじや 金北山神社

寛永年間(1624~1643)、鶴子銀山の山師であった初代秋田権右衛門によって現在地に建立された神社で、金北山の里宮の一つとなっています。毎年4月中旬に祭礼が行われ、相川系の鬼太鼓や豆蒔きの翁の舞が行われています。金北山神社の祭礼は、鶴子銀山で利益を得た秋田権右衛門により始められたと伝えられており、神輿には「金銀山」「大盛り」の額が掲げられています。



09 つるしとこやあと 鶴子床屋跡

沢根の鶴子集落の北端には「かなくそ平」とよばれる製錬作業で出る不純物に由来する地名が残っています。この地は、鶴子銀山の床屋(製錬所)があったとされる場所で、銀山の衰退とともに床屋は廃止されましたが、幕末にはこの場所で銅製の大砲が鋳造されました。この時、本間琢斎によって砲身の模様を蛸型で鋳造した技術が、後の「佐渡の蛸型鋳金技術」へとつながりました。



10 つるしたなかいせき 鶴子田中遺跡

鶴子銀山の繁栄と共に栄えた鉱山労働者の集落があったとされる場所です。史料によると、大工町や四十物町などの町名のほか、専得寺など複数の寺院があったことがわかっています。17世紀初頭には佐渡代官であった田中清六、河村彦左衛門の陣屋があったとされています。銀山の衰退とともに大工町や四十物町は相川へ集団移転し、相川の大工町や四十物町となったことが記録に残されています。



11 にしいかりみち つるしみち 西五十里道・鶴子道

真野湾に面した沢根から鶴子銀山を経て、相川金銀山に至る鉱山道です。このうち、鶴子道は戦国時代末期の主要な鉱山道と考えられています。また、西五十里道は途中で鶴子道と合流し上相川まで延長されました。1628年(寛永5)に相川往還が整備されると、山越えの急峻なルートであった鶴子道や西五十里道は主要道ではなくなりますが、以後も地域間を往来する道路として利用されました。



12 さわねもとじょうあと さわねじょうあと 沢根元城跡と沢根城跡

真野湾沿いの沢根地区は、河原田本問氏の家臣であった沢根本問氏の領地があった地域で、戦国時代の終わりに沢根元城から質場の崖にあたる沢根城へ居城が移転されました。沢根本問氏は、上杉景勝が佐渡を攻めた際に上杉家に味方し、沢根城周辺の浜に上杉勢が上陸したと言われています。1589年(天正10)以後、上杉氏の代官が詰める番城として利用されたのち廃城となりました。